

特集 自閉症のある子どもの教育課程研究

国立特殊教育総合研究所研究紀要編集委員会

<特集の趣旨>

当研究所は、昭和52（1977）年以來、自閉症教育に関する多くのプロジェクト研究に取り組んできた。平成15（2003）年度から3年計画で開始したプロジェクト研究「養護学校等における自閉症を併せ有する幼児児童生徒の特性に応じた教育的支援に関する研究－知的障害養護学校における指導内容、指導法、環境整備を中心に－」では、当研究所におけるこれまでの自閉症研究や国内外の先行研究の成果を踏まえ、養護学校等の教育現場における自閉症教育の充実に役立つ「自閉症教育実践ガイドブック」や「自閉症教育実践ケースブック」をとりまとめるとともに、全国の盲・聾・養護学校を対象とする悉皆調査から、在籍者の約25%が自閉症の診断あるいは疑いがあると推測されること、そうした自閉症の子どもの多さにもかかわらず組織として自閉症教育に取り組んでいる学校は4校に1校程度であることを明らかにした。さらに、3年間の研究から、自閉症のある子どもに有効な指導法や環境整備については成果の蓄積が見られるが、自閉症の子どもに適切な教育課程の検討はまだ不十分であることも明らかになった。そこで、本研究紀要では、「自閉症のある子どもの教育課程研究」と題した特集を組み、今後の特別支援学校における自閉症の特性に応じた教育課程研究の促進を図ることとした。なお、本特集は本研究紀要編集委員会が企画し、平成18年度から開始されたプロジェクト研究「特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究－総合的アセスメント方法及びキーポイントとなる指導内容の特定を中心に－」の研究分担者に依頼し、その研究計画に位置付けて執筆されたものである。

最初の齊藤・内田論文「自閉症教育のキーポイントとなる指導内容－7つのキーポイント抽出の経緯と内容を中心に－」は、前プロジェクト研究で自閉症教育のキーポイントとして提案された7つの力について、その抽出プロセスと妥当性について報告するとともに、それらの力に基づくアセスメント及び授業の在り方について提案している。

2番目の佐藤・涌井・小澤論文「自閉症教育における指導のポイント－海外の4つの自閉症指導プログラムの比較検討から－」は、機軸反応訓練、幼児自閉症プロジェクト、TEACCHプログラム、発達・個人差・関係を基盤としたアプローチ（DIR）という海外の4つの自閉症指導プログラムを比較検討し、自閉症教育において重要な指導内容の要素を見いだそうとしている。

3番目の徳永・木村論文「自閉症の特性に応じた教育課程の在り方に関する考察－我が国における知的障害養護学校の実践とイギリスにおける取組からの考察－」は、我が国における自閉症の特性に応じた教育課程を研究してきた研究開発校等の実践について報告するとともに、イギリスの自閉症学校における教育課程と比較検討し、自閉症の子どもたちに必要な特別な教育課程の在り方について提案している。

